

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・小林善秋・高橋潔  
室賀清輝・高橋利春・加瀬由紀子  
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社



図榮涅槃尊釋

ご家族の皆さままでご覧ください

## 諸悪莫作・衆善奉行・

## 自浄其意・是諸仏教

翠巖龍弘

二月二十二日にニュージーランド南島のクライストチャーチ市付近でおきた地震では、一瞬のうちに多くの尊い生命が失われ、また建造物等多大な被害がありました。新聞やテレビのニュースを見るたびに、地震多発地帯で生活している私共日本人にとって、また中越地震を経験した私にとって

も他人事とは思われなく、被災地の方々や亡くなられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。陰ながらご冥福をお祈りすると同時に微力ながら復興の応援をしていきたいと思えます。

に生きる力、安心を与えつけておられます。では、仏の教えとは何でしょうか？

上の写真は釋尊が沙羅双樹の下で涅槃に入る時の、頭北・面西・右脇下にして臥し、周囲に弟子・菩薩・天竜を始め多くの動物までが泣き悲しむさまを描いた涅槃図です。釋尊は今から二千五百有余年前の四月八日にカピラ国の太子としてルン

ビニの花園で誕生(降誕会)され、二十九歳の時出家され、三十五歳の十二月八日、尼連禪河のほとりブッタガヤの菩提樹下で大悟(成道会)され仏陀となられ、ハラナの鹿野苑ではじめて説法され(初転法輪)、以来四十五年の間東奔西走、衆生済度に魂を傾けられ、クシナガラ城外、沙羅樹の園で八十歳の御年でご入滅(涅槃)なされたと伝えられております。禅宗では昔から三仏忌として本山をはじめ各寺院でも御厳に法要が勤められてまいりました。

昔、中国の道林禪師(七四一〜八二四)のもとに、白居易(白樂天)が尋ねてきて「佛法の大意如何(仏教とは何ですか)との質問に、「諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意・是諸仏教」(悪いことをせず、よいことをして、自分の心を淨くせよ、これが仏教である)と答えられ、さらに白居易が「そんなことは三才の童子でもわかつていることだ」と反問すると、「三才の童子でもわかつていることでも、八十の老翁も行なうことはむずかしい」と答えられたそうです。

安善寺でもひと月遅れの三月十五日に涅槃会を厳修しており「おダンゴまき」として皆様に親しまれてきました。釋尊は涅槃に入られるまで、衆生に心安らかな人生を願って四十五年もの長きにわたって仏教を説かれました。東南アジアをはじめ、現在では世界の多くの人々

悪いことをすると心が痛み、よいことをすると心が喜びます。だが実行することとは大変です。しかし、自分の人生です。自他共に心安らかに生きるためにも仏の教えを戴く人生でありたいと思えます。

春には百花有り 秋には月有り 夏には涼風有り 冬には雪有り 『無門関』



# 【日々精進(十二)】

## 雪国だからわかる「ありがたさ」

近藤 真弘

降り積もった雪も徐々に融け、境内の櫻には早くも新芽がちらほらと春の訪れを感じる季節になってまいりました。

今年の冬は例年になく大雪となり街のいたる所で雪国ならではの雪下ろしや除雪の風景が見られました。私自身本山の修行から戻り、四度目の冬を長岡で過ごしたことになります。昨年も比較的雪が多く雪下ろしをした人も何人かいたようですが私は昨年十二月から三月までアメリカに行っていたので、今年は久しぶりに雪に埋まった長岡での冬を過ごしました。

月お経に何うと皆さんが下屋を何回、母屋を何回と雪下ろしの苦労話も雪国ならではの話だなぁと改めて雪国の冬の大変さを実感いたしました。

しかし、今年は大雪だと

いつても昔に比べると年々雪の降る量は減っています。私が幼いころの写真でもその差は一目瞭然です。さらに昔、長岡の県立歴史博物館

ら出ても太陽は拝めず正に雪の中に閉じ込められた様な状態です。時代は変わり今は暖冬に加え融雪設備も整い、その

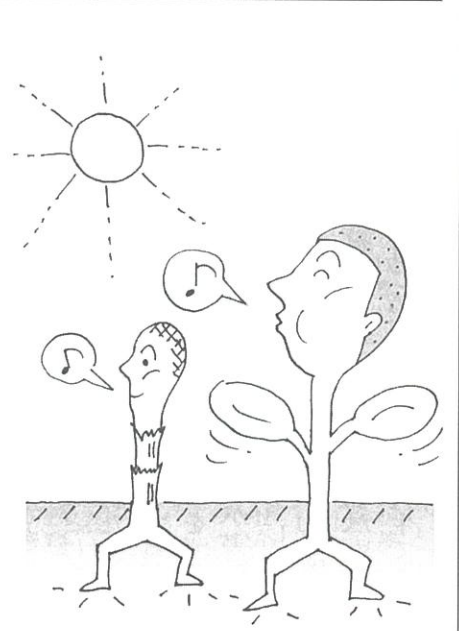


館に昭和三十年代の上越市高田の雁木通りの冬の街並みが再現されているコーナーがあります。融雪パイプも無く屋根や雁木からおろした雪で家の前の通りはその家と同じくらいの高さの雪山が出来上がり、家か

りません。よく言われるのは、雪国の人は冬のあいだ雪の中で暮らし、春が来るのをじっと我慢している。その事によって辛抱強さが自然と身についている。そして雪融けとともにやってくる春の有難さを一段と実感することができるようになります。

先日私が九州に行った折に、修行時代の仲間と会い話をしていると、そんな雪国の話題が上りました。私が雪国の人は辛抱強いんだ、などと話をするとその友人はこんなことを言いました。「確かにそれは地震の時に感じ

た。地震で被害にあい避難所に入っている人の生活をテレビで観た時に普通インタビューを受けた人は避難所の生活の不満や政府の対応に対しての不満をよく言っているけど、新潟の時は不満よりもむしろ感謝の言葉を



言っている人が多かった」。そんなことを友人が話したのを聞き私は誇らしいような気持ちになりました。確かに毎年雪が降る中で生活は毎年災害がやってくるのと同じだと思います。しかしそれは自分たちではどうする事も出来ない自然の営みであり、そこは地震という災害と変わりません。雪国の人はそれを仕様がな

いものだと受け入れることができるのです。ですから冬のどんよりと曇り空が続く中、晴れた日が一日でもあると晴れている有難さに気がつきそして感謝をします。冬の最中の晴れ間に有難いなぁと思えるのです。そして毎年やってくる雪の降る冬は我々の生活に刺激を与えてくれます。人間は暮らしの中で刺激を求めます。確かに大変ではある冬ですがそんな冬でも待ち遠しい気持ちもあり、毎年初雪が降った時は嬉しい興奮を覚えます。雪下ろしの話も大変だと言いながらもそんな話をする方は決まって生き生きとした表情でお話をされます。小雪の年は物足りなさを感じるのには私だけではないと思います。雪と一緒に暮らす。そこには当然苦労も多いです。しかし大雪に比例して春の訪れの感激は大きくなります。今年は特に春の訪れが楽しみです。



〔長岡紀行①〕

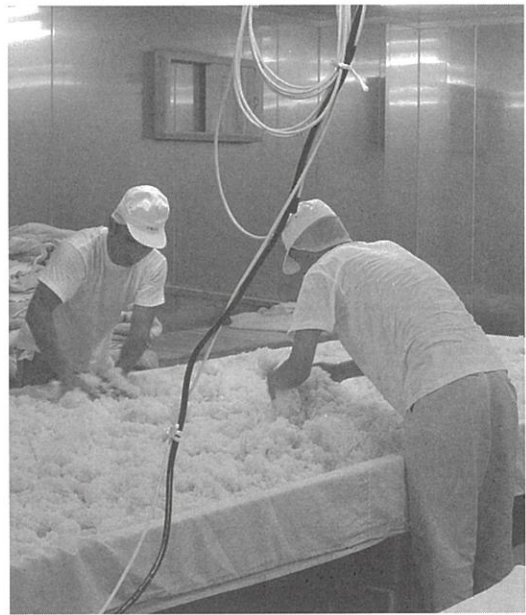
# 生活文化を支えた 発酵食品

長岡市/お福酒造株式会社 岸 伸彦

日本は古来よりその気候風土を生かした素晴らしい発酵食品が多数あります。酒、味噌、醤油、酢は代表例ですが、例えば旨み成分であるイノシンが豊富な「鰹節」、東洋のチーズといわれる「豆腐よう」、発酵により解毒を施しかつ旨みを凝縮させた石川県発祥の「ぶぐの卵巣漬け」など各地域によって生まれた珍味もあります。これらの発酵食品は、味の定番要素である甘・辛・酸・苦・塩

辛いの他に「うま味」を加えました。発酵食品という保存機能ばかりが強調されがちですが、味や香りの向上にも大きく影響を与えていると言えるでしょう。実はこれら発酵食品が作られる過程では、共通する一つの重要な要素があります。それは、「麹(こうじ)」です。麹が無ければ日本で発酵食品は存在し得ませんでした。

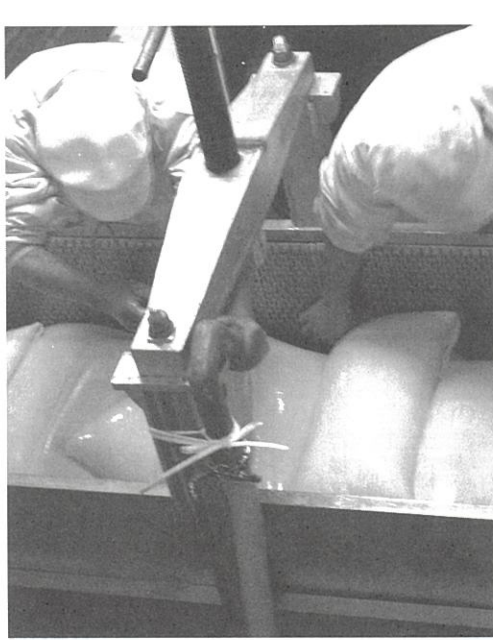
最近この麹には優れた素晴らしい機能があることが明らかにされてきました。先般NHKの某番組で放映された酒粕の効用の話をここで紹介します。酒粕は日本酒のもととなる、もろみ



を搾った時にときに残る副産物です。酒粕はビタミンB群やアミノ酸など栄養成分が豊富である上に、更に「悪玉コレステロール値を下げてくれる」という健康効果があり、その効果の要因は、原料である米の成分の中に含まれる「レジスタンスプロテイン(消化されにくいたんぱく質)」が、脂質や油をしつかり捕まえてそのまま体外に排出してくれるからだ

と紹介されていきました。この優れた物質は原料である米の中に含まれながら通常は隠れていて作用せず、酒の発酵過程で活躍する「麹

と「酵母」が、米成分のデンプンやたんぱく質を分解した後、この「レジスタンスプロテイン」をむき出しにしてくれるからこそ作用することが出来ることも知りました。驚くべき健康パワーです。実は酒粕は、江戸時代から重宝されていたようです。酒粕から造られる「甘酒」は、江戸時代後期に刊行された「守貞漫稿」(喜田川守貞著)の中に登場し「江戸京坂では夏になると甘酒売りが市中にでてきて、一杯四文也」と記載されています。日本の夏は蒸し暑く、当時の質素な食生活からみても夏を越すのは相当困難で、いわゆる滋養強壮のために庶民が手軽に飲める栄養ドリンクだったのではないかと、ある文献で読んだことがあります。現代でも甘酒の季節が七月であることが領けます。



蔵人も昔からこの酒粕を味噌汁に入れたり、表面を焼いて砂糖醤油につけて食べたりと、寒く体力もいる酒造りを乗り切っていました。醸造業界で、甘酒が「飲む点滴」といわれてきた由縁です。酒粕ばかり記載してきましたが、酒粕の健康パワーの源は、日本酒醸造に欠かせない麹と酵母にあります。その麹と酵母を使用した米を原料に醸造される日本酒も百薬の長であることも付け加えてさせていただきます。

そしてこの酒造りにも、麹菌以外の発酵食品の力が働いています。それは、ヨーグルトを作る過程で発生する乳酸菌により生成される乳酸です。現代の酒造りは、この乳酸菌を使用して優良な麹菌や酵母菌が働きやすい様に他の雑菌を排除し良質な酒造りを表現しています。この乳酸を日本で初めて酒造り

に応用したのが当社創業者岸五郎でありました。(新潟県酒造組合発刊「新潟県酒造史・明治時代の酒造り」より) 2月下旬、今酒造りは吟醸造りの真つ最中です。毎日毎日槽(ふね)から香り高い吟醸酒が搾られてきます。一



# 第十六回 KAKA笑の会

## ハツ・ピーな

### ボサノヴァ・コンサートです！



※チケットは実行委員よりお求めください。

■とき 六月十八日(土) 午後六時半開場 午後七時開演  
■会場 安善寺本堂 ■会費 二千円(税込)

長岡にも熱狂的なファンがいるボサノヴァの女王、賀来まさえさんと、中南米音楽演奏のスペシャリストグループ「エリス」が安善寺本堂をブラジル色に染める、陽気なコンサートです。賀来さん、ノッてくると美空ひばりや演歌も歌います！ハッピーな夜をお楽しみく

ださい！では、メンバーを紹介しましょう。

#### ●ヴォーカル：賀来まさえ



国立音楽大学在学中よりスタジオミュージシャンとし

て活動。多くのCMソングを手がける。81年サンバグループ「コンボトウシュー」に参加し、アルバム「風のサンバ」「真夏」をリリース。93年「賀来まさえ&エリス」を結成。CD「二月の空」よこがお」発売。

#### ●ギター：佐藤ふじを



東京外語大中退後、ジャズギタリストとしてプロに。日本初のサンバグループ「オパ」を結成。東芝EMIよりシングル7枚、アルバム2枚をリリース。作曲家としてもNHKのドラマ音楽や多数のCMを手掛ける。07年には今や伝説ともなった「オパ」のアンソロジー・アルバム「ヘンリー」をリリース。

「7弦ギターの吟遊詩人」と評されCD多数発売中。

#### ●ピアノ：鈴木厚志



国立音楽大学ピアノ科を首席で卒業後ブラジル音楽と出会い、サンバ等のリズム研究に没頭。現在日本では珍しいブラジル音楽専門のピアニストとして音楽活動を行う他、作曲・編曲、プロデュース等でも活躍中。

#### ●パーカッション：吉田豊



法政大学・ギタークラブ所属後、ブラジルに渡る。帰国後、「ロス・インディオス」メンバーとなり、「オパ」に参加。長谷川きよし、岡林信康、ネルソン・サルジェントなど国内外のアーティストとセッション。ブラジル音楽の普及に努め、「魔法の指」と称される音色は高い評価を得ている。

#### AEDを設置しました

このたび当寺では本堂入口にAED(自動体外式除細動器)を設置いたしました。お参りにおいでいただいたお客様が、急に体調を崩されたり、気分が悪くなったり、といったときに素早く対応できるように設置いたしました。

皆様、AEDについてはご存じかと思いますが、緊急時には一刻も早い救命蘇生措置が望まれます。AEDは



人口呼吸と組み合わせることで蘇生の心強い味方になります。

使用に際し、メーカーからのトレーニングを研修し、確実な処置が直ちに実施できるようにいたしました。どうぞご安心しておいでくださいませ。

## お別れ

(平成廿二年十二月)

平成廿三年二月末まで

熊倉ヨシ様 十二月廿三日寂

長岡市中島

佐藤昭春様 十二月廿日寂

長岡市横山

太刀川進之介様 一月一日寂

長岡市水道町

小野初枝様 一月九日寂

愛知県名古屋

佐藤コト様 一月九日寂

長岡市東神田

保科久子様 一月十三日寂

長岡市美沢町

大勢待宗様 一月十三日寂

埼玉県所沢市

鈴木定行様 一月十四日寂

長岡市西神田

田村ヒサイ様 一月十八日寂

長岡市中島

監物貞司様 二月五日寂

長岡市東新町

内藤一蔵様 二月六日寂

長岡市上条

加治精一様 二月十八日寂

長岡市昭和

日山ヨシノ様 二月二十五日寂

長岡市新保

ご冥福をお祈りいたします







# 徹関先生に学ぶ — 中村先生を偲んで — (最終回) 西澤 正元

(前号の途中より続けて)  
東方学院での先生との対面は五分くらいであった。もし時間が許せば、これからの日本の教育について先生の助言をいただければと思っていたが、次の面会客が待っていたので遠慮した。

ただ、先生が学問の師として和辻哲郎博士のことを著書に書いておられたので、和辻博士は、私の母校姫路中学の先輩ですと話したところ、「和辻先生のこととは小論として学会誌に書いたことあるから、折があったら読んでください」と言われた。酒も煙草も飲まない先生なので、私は長岡の銘菓「越の雪」を手土産にと差し出した。そして、また厚かましいことだがと自省しながら、退職後、頼まれて「教育にいたがた」に寄稿した教職回顧録「デモシカ先生三十九年遍歴の記」の小冊子を差し出した。先生はパラパラとめく

りながら、「今度の休みに読みましょう。教育長職は大変でしょう。まだ若いようです。すから頑張ってください」と激励された。

先生は、大正元年生れで八十一歳になられる。考えてみると、十六年前、先生との初めての出会いの時、文化勲章を受章された先生は、今の私と同じ六十五歳であられたことになる。驚きの外ない。

「ここは神田明神のそばで、地元の名物ですから召し上がって行ってください」と出されたみつ豆を有り難く頂戴した。そのみつ豆は、なつかしい黒砂糖の甘みであった。湯島聖堂は江戸時代の学問の府であり、神田明神は国学発祥の地である。そして寺子屋と自称されている東方学院には、八十一歳の今も、なお若々しく倦まず勉強…、先生はいつも勉強とは「強いて勉める」こと

とおっしゃっている…：さてしている中村先生がおられる。私は新たな感動に満ち足りて神田明神の坂を下った。

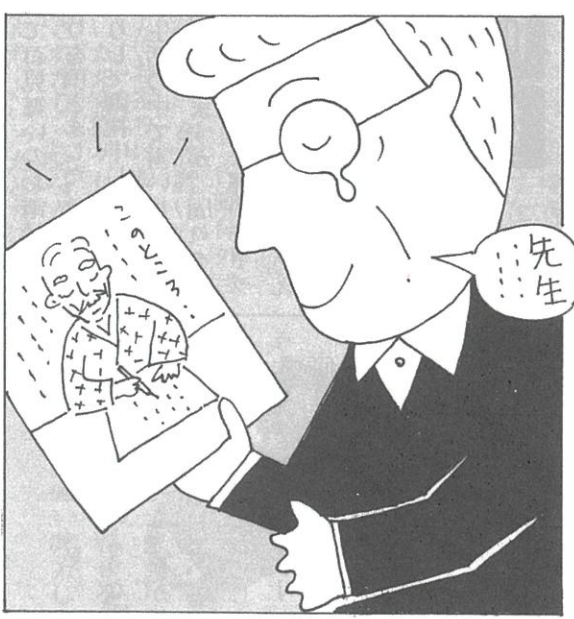
《過日は突然お伺いいたしましたのに、貴重な時間を割いていただき有り難うございました。かねがねお会いできればと思っておりました先生に、久しぶりにお目にかかり、心の安らぎと、仕事への情熱を与えられたように思いました。厚く御礼申し上げます。たまたま、市内の先生方から研究集録に一文をと依頼がありましたので、別稿のようなことを書かせていただきました。お許しくださいたいと存じます。》

私は帰宅してから、このような礼状を書いた。その後、風の便りに先生が少し体調を崩されたと聞いたが、平成十年の年賀状に、「近年 小生は 少し健康

を害しましたので とかく御無沙汰に打過ぎました失礼の段お恕し下さい。もうかなり回復しましたので、平常の生活に戻りました。」とあり、翌十一年の年賀状に

しました」と、せんせいらしい文面で近況報告をいたしていたのであるが、残念なことに十月十日に逝去されました。

先生の体調を崩されるまでの年賀状の宛名は自筆であったのだが、平成十年からはワープロかパソコンに変わっていた。



は、「このところ とかく御無沙汰に打過ぎましたが失礼の段 悪しからず御寛恕の程願い上げます お蔭様でこの頃は大大分体調も回復

て、冒頭のNHKの追悼番組の中で、教え子の駒沢大学の奈良康明教授は、「先生は、資料の分析力と総合力に卓越した力をお持ちで、

八回に渡り連載させていただきました「徹関先生に学ぶ—中村先生を偲んで」は今回で最終回となりました。長い間ご愛読有り難うございました。

私は、先生が出演されたNHK教育テレビ「この時代のシリーズ」を録画してきた。そのテレビを見る度に、いつも「寛容」を説かれていた先生の温顔に接し、安らぎと勇気を与えられるのである。(平成十三年二月はくぼく四十二号)



# 旬歌 愁灯

[二十九話]

## 子鹿のバンビ

加瀬由紀子

「小鹿のバンビは可愛いな。」で始まる童謡をご存じだろうか。戦後まもなく封切られたディズニーのアニメ「バンビ（小鹿物語）」はモノクロ映画全盛の当時に、最新の美しいカラーで少女に夢と感動を与えたという。

映画の主人公、バンビはつづらな瞳で母鹿に甘えるしぐさが可愛く描かれているが、他ならぬこのバンビチャン、今、日本のあちこちに出没し問題になっている。近縁種のエゾシカの捕獲を認めている北海道は言うに及ばず、遠い過去に絶滅したといわれている山形県でも今年二月に生存が確認された。昨年の九月、長岡市でも大積地区の国道で車に接触した二頭の死骸写真が新聞に載り、「長岡にまさか、シカ？」と驚いた市民が多かったそう。

尾瀬国立公園内も、日光方面からバンビチャン一行が大挙して押し寄せ、貴重な湿生植物を食い荒らし、湿原にはヌタ場と呼ばれる泥溜まりが出現、樹林帯では樹皮を剥がされた木々が枯死寸前で痛々しい。

環境省も数年前から私たちパークボランティアに、国立公園内のニホンジカ調査を重点活動として依頼し、現在に至っている。日中は食痕、糞等のチェック、定点撮影、植生モニタリング、赤外線カメラの設置・保守点検、まれに罠のチェック等もあり、木道の道なき道をヤブ漕ぎ、沢登りといった難行を繰り返すこともあるハードな作業である。

むろしているのを数えるのだが、このビームライトがメチャクチャ重く、荒天時や寒い春先・秋口には辛い移動だ。調査班は、危険回避と正確を期す点から三名以上の編成で、尾瀬沼地区は約二時間、尾瀬ヶ原地区は約五時間、暗闇の木道を移動しながらこの作業を続ける。記録、照射、距離（距離計で）、方位（コンパスで）の分担で人数が少ないと一人何役も兼ねる。

山小屋が眠りに就く夜更、ライトセンサーに向かう。これは強力なライトを定位置から照射、バンビチャンたちが林縁部や湿原内にと

キノワグマの黒い巨体がライトに浮かび上がると、さすがに脂汗が背中にはじむ。



昨年、私は新潟県境の奥銀山（鷹ノ巣地区、正確には魚沼市下折立）のシカ調査を担当した。釣り宿を中心にして十軒余の建物があるのだが、無人の廃屋も数軒、殆どが高齢者でソバやフキ等の山菜畑を細々と耕している。シカ、クマ、サル被害もかなりあると採り立ての蜂蜜とお茶を淹れながら話して

くれる家もあり、ありがた。夏をはさんで半年を過ぎすと小出や福島側に下山する厳しい暮らしたが、マイタケを持って行け、と温かい歓迎が嬉しい。

もつとショックを受けたのは、古老が遠い目をして語った、昭和四十年代までいくつかの学校があったという話だった。東湯之谷小学校鷹巣分校（その後井口IIのぐちII小学校鷹巣夏期分校）は僻地等級五級という最僻地に指定されていて、奥只見ダムの底に沈んだのが、東湯之谷小学校浪井分校、福島側に松枝小学校赤岩分校、大杉分校、大津岐分校が（いずれも僻地等級五級）存在していたという。

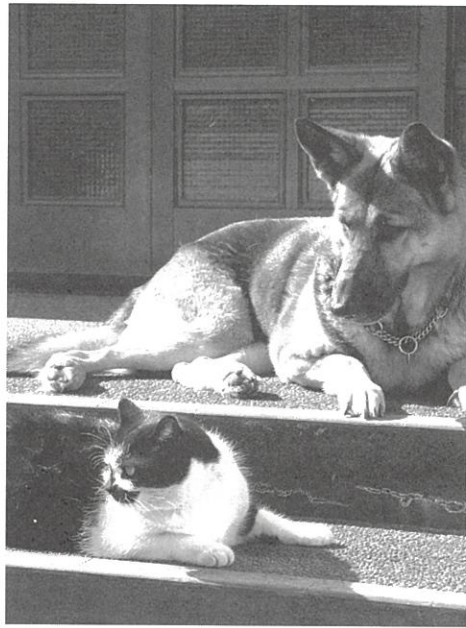
跡形も無く生い茂る草の中、廃れるばかりの僻地にかつては子どもたちの元気な声が響く学校が五校もあったのだ！ 子どもたちに代わってバンビチャンたちが遊んでいる現状は何ともうら悲しく、シカタがない。などと言ってはられない。



ボブの独り言

# 大雪のせい(?)で体重が…、 運動しなければ!

## ボブの独り言



ル投げをしてあげるのですが、ボールがすぐに雪に埋まってしまおうのです。でもさすがに臭覚が凄く、ここだとわかると降り積もった雪を前足で掘り続け探してのるのです。私が感心したのは家の中から誰が呼んでも振り向きもせず、二時間もかかってひたすら掘り続け、やっと掘り当てたボールを愛おしむように雪の上で転がして遊んでいる姿は普段私を見ると凄い勢いで追いかけてくるノンとは違って見えました。

以前は、外に出て帰って来て部屋で休んでいても何事もなく過ごせたのですが、大人だけだった今までもは違い、まだ抵抗力のない赤ちゃんが一緒なので当然ペット達にもいろんな制約ができてきました。何度かワクチンを受けた真人君に倣い私も猫のワクチンを受けに連れて行かれました。その時に体重計の数字を見た久美子さんの驚いた顔! ノンとは違い、私は運動もしないで食べるだけ食べていたものですから、真人君の体重を超してしまっていたのです。家に帰るなり「ボブの体重、真人より重いよ!」と皆に報告する久美子さんの声を耳を塞ぎながらすすごと二階に上がりました。運動をしなければ…? ニヤーン

ようやく差し込む日差しが暖かくなってきました。それにしても大雪で、窓を開けると部屋から雪を手で触れるくらい積もりました。私たちが雪で大変な思いをしている頃、新燃岳が噴火したとのこと。「雪は春になれば融けてなくなるけれど、火山の噴火は気の毒だな」と誰かの声が聞こえて来ました。災害は当事者でなくては解らないことが沢山あり

ますからね!  
こんな凄い雪を喜んでいたのは犬達ばかり。「犬は喜び庭駆け回り、猫は炬燵で丸くなる」とは良く表現したものです。私は寒い所に出るのが嫌で暖かい部屋でヌクヌクとしていましたが、元気の良いノンはどんなに雪が降っていても時間になると遊んでくれそうな人のところへ行ってしまうくらいにせがむので誰かしら庭でボー

### お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

#### 原稿の例

- 思い出話 / ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて / 家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください / 仏事のしきたりや疑問 (編集部や住職がお答えします) など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

### 編集 雑感

昨年末から中東国で政権が民衆によって倒される事が続いています。これはインターネットで呼びかけ、若者がデモに参加しているらしい。ネットの力に感心したり

していますが、また悪用されたら大変こわい事でもありません。私たち団塊世代は、今までは手紙や電話での連絡方法が主流でしたが、ネット社会では、相手の顔も知らない人に自分の書いた日記(ブログ)を読んでもらうとは、私には考えられません。そして、秋葉原事件のように、自分の意見が、ネット上で否定、中傷されたと思いい、あのような無差別な殺人事件を起こしたと、聞いています。

人と話し合う時は、相手の目を見て話すものであると言う常識が通じなくなってきたのでしようか。ネット上で品物の売買をすることも多くなっています。が、代金を払ったのに品物が届かないような、トラブルも多く見受けられます。人間、社会で生きていくためには、色々な事が起こります。一

人では生きていけません、人と人の接触が基本です。エジプトでは私が中学生の頃から三人しか大統領が替わっていません。「ナセル、サダト、ムバラク」と、私でも言えますが、日本では戦後、吉田茂に始まり、菅直人まで何人の首相が替わったでしょう。独裁も困りますが、一年で首相が替わるのも困ります。

政治家も足の引っぱり合えばかりして、きちんと相手の目をみて話そうとしません。マスコミを介して相手を誹謗し、それをマスコミや評論家が誇大に伝えているものですから、まとまるはずがありません。もつと明日の日本をどうするかを、政党やマスコミを除き一対一で相手の目をみて語り合えば、おのずと道は開けてくると思えますが、皆さんいかがでしょうか。この原稿を女房に読んでもらったら、「あなたも、私の方を向いて話していることが最近ないわよ」と言われま

した。反省しています。

室賀清輝

第五十四号、夏号は平成二十三年七月九日(土)発刊予定です